

技術士会本部
中国本部

技術士の資質・地位向上へ

年次大会で事業計画など報告

日本技術士会中国本部（大田一夫本部長）は17日、広島市中区の広島市文化交流会館で2021年度年次大会を開催した。21年度の事業計画や



あいさつする大田本部長

收支予算などを報告し、技術士の資質向上や地位向上に向けた活動を積極的に展開していくことを申し合わせた。

開会挨拶で大田本部長は、使命となる『技術士の資質向上』と『技術士の地位向上』に関するそれぞれの活動状況などを報告。コロナ禍で集合形式によるCPD講演会の開催回数は減少したが、Web配信による講演は増加したと説明し、「コロナが終息したあとも、できるだけ多くの人がCPD講演会に参加できるように、本日のような会場参加とオンライン参加を併用するハイブリッド型

での開催を続けていきたいと考えている。14年以上降っていた、中国本部全体で200時間以上のCPD時間の提供は継続していきたい」と語った。

また、近年、特に注力している大学・高専との連携・協力協定の締結にも言及。「現在、岡山理科大学や津山・徳山・呉・松江・宇部の5高専と協定を締結しているが、近々、広島工業大学とも締結予定がある」とも明かした

ほか、「本年は役員改選の年で、5期目の中国本部長を務めることになった。本部長の再任は通算で5期（10年）以内となることから、私の集大成として有終の美を飾れるように、新役員の皆さんと一丸となって、諸活動に邁進していく」と述べた。

を議長に、20年度事業報告・收支決算、21年度事業計画・收支予算及び組織体制などの報告などが行われた。この中で、コロナ後も見据えて、21年度は広報委員会の補強や倫理委員会の設立、Web配信（集合視聴、個人視聴）の充実などを事業強化点にあげた。

年次大会終了後は、与党技術士議員連盟事務局長を務める新妻秀規参議院議員が『技術士制度改革の最新状況』をテーマに情報提供。制度改革の方向性や意義、技術士への期待などを私見を交えて講演した。このほか、会員以外も対象とし、九州大学の島谷幸宏名誉教授による『温暖化時代の地域づくり』を演題とした記念講演会も催された。

技術士の活躍サポート

斉藤副代表らが大会で強調

広島市



あいさつする
斉藤副代表ら
17日 広島市

公明党の斉藤てつお副代表は17日、広島市で行われた公益社団法人・日本技術士会（寺井和弘会長）の中国本部年次大会に、新妻秀規参院議員と共に出席し、あいさつした。

斉藤副代表は席上、「技術士法の改正に向けて現在、与党技術士議員連盟で議論している。技術士の活躍を全力でサポートしていく」と訴えた。
技術士制度改革について

講演した新妻氏は、「グローバル社会における技術士資格（国家資格）の国際的通用性の確保など制度改革に取り組んでいく」と述べた。